

防災活動10年の振り返り

川西地区自主防災会 岩崎正朔

去る9月2日、首相官邸において「平成22年防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞。この受賞は川西地区地域住民の頑張りもさることながら県市をはじめ香川大学、国土地理院、気象台、日本建設情報総合センター、防災士会等と、更には各地域の自主防災会、連合自治会組織のご支援の賜物であると思っていますが、この機において歩んできた10年を振り返ってみたい。

1. 平成12年～平成15年 (スタート時)

- ・組織人員等
コミュニティ組織の総務部会(防災担当)が主となって、4～5人(男性のみ)でお世話をさせていただいた。

- ・年間経費 7万円～15万円

・主たる活動

- ① 消防本部指導による防災訓練の実施
- ② 神戸・北淡への視察
- ③ 県が開催するシンポジウムに参加
- ④ 資機材として、市役所提供の「救出用工具キット」1組、発動発電機1台地域調達として、ヘルメット70個、ブルーシート20枚を購入

・私(岩崎)の想い

限られた予算の中で、淡々と防災を・・・私の立場は、総務部会の副部長。ただ将来のことも踏まえ会長、副会長を誘って半ば強引に神戸の「人と防災未来センター」を案内し、防災に対する取組みへの理解を求めた。

《 おにぎり1,000個作戦 》



2. 平成16年～平成18年（確立期）

・組織人員等

コミュニティ組織に防災部会を新設、初代部長にM氏を起用、明るくてスポーツマン、人徳もありましたが、彼は現役サラリーマン、仕事に追いまくられ任期2年で退任。後任には現役を退いているNさんを起用。部会の人数は15名女性が6名、他の部会へ自主ぼう活動に参画するよう求めた時代でした。

・年間経費 20万円～30万円 但し18年度は、50万円超

・主たる活動

- ① 自立した防災訓練の実施
- ② 香川大学と連携、地域のマップ作り
- ③ 民間避難所の開設（5カ所）
- ④ 土のうステーションの設置（5カ所）
- ⑤ 防災の手引書を作成、配布
- ⑥ 県・大学等の防災系フォーラム・シンポジウムにすべて参加
- ⑦ 初めて香川県総合防災訓練に参加
- ⑧ 資機材を計画的に調達

・私(岩崎)の想い

この年からコミュニティ、連合自治会、自主防災会の会長となる。自分の描いた地域づくりに着手するも、防災にかかる費用と稼働に対して、あちこちから不満が出て夜も寝られない日が多くなった。そんな時、神戸市のあるまちづくり協議会の会長さんと出会い、まちづくりに対する理念、心意気に触れるとともに「防災まちづくり大賞」というものも初めて知った。またボランティア活動の難しさを乗り越える夢が要ることを知った。その後、第11回防災まちづくり大賞にチャレンジしましたが、人に活動を理解していただくという事と、資料作りの難しさを体験した。



3. 平成19年～平成22年（飛躍期）

・組織人員等

自分自身がしんどいのですが、会長と部長を兼務。思い切り引っぱってみようと、やる気のある人ばかりで自主ぼうを形成（コミュニティ組織の約50%）、活動の礎となる防災部を30名に増強し、小学校との連携や、積極的に人探しを行った。

・年間経費 50万円～70万円

・主たる活動

① 小学校・中学校・高等学校の
防災教育

② 小学生との安心・安全マップ
作り

③ 主要な取組みへのP D C A
サイクルの導入

④ 広報活動（会報発行）の展開

⑤ かがわ自主ぼう組織の立ち
上げと運営

⑥ 出前研修・出前訓練の実践

⑦ トリアージ研修の採用

⑧ 救出用備品庫の計画的配置

⑨ 小学6年生と共に県防災訓練
に参加

・私(岩崎)の想い

何と言っても小学校をベースと
した防災教育です、4年前決断さ
れた校長先生に敬意を表したい。
平成18年度第11回防災まちづく
り大賞受賞後は、私達を見る目線
が変わったし、より一層の責任を
感じるようになった。家内も巻き

込んだ取組みに、我が家の中は、恥ずかしいが人様に見せられる状態ではなくな
った。ボランティア活動をはるかに超えた「忙しさ」に数人の部会員が去って行
った。新たな戦力となる人探しは常に行っている状態である。



4. 最後にリーダーとして何が必要だったか

1) 「地域自立」の理念を持ち続け、決してブレない取組み

2) 何時も資金調達に努力継続する

3) 常に改善意識と強い実行力、それと率先垂範

4) 出来る限りのコミュニケーション（飲む・食べる・観る）を行う

5) 出る杭が打たれるごとし、打たれても、打たれても、それを柔らかく
むかえて、決して下がらない「気」

以上

平成22年9月

鬼無町について

鬼無コミュニティセンター
(鬼無自主防災会 事務局)
センター長 田所清美

1、まちの案内

我町鬼無町は言わずと知れた《盆栽の町》です。緑豊かなのんびりとした風情のあるおとなしいまちです。

もうひとつは勝賀山に城跡（勝賀城跡）がありいくつか古墳もある古くからの歴史のまちでもあります。そして町名の由来はいくつかあるのですがやはり桃太郎神社があり、そこからひも解かれる鬼退治の桃太郎伝説がある町、ゆえに『鬼が無い』＝鬼無ではないかといわれています。

おもしろいところ？人物？浮かびません（笑）頑固なまでに保守的！でも住みやすいまちです。

2、まちづくりに対するおもい、夢

まちづくりに1番大切なことは《ひと》であります。まちを引っ張る人材（ニューリーダー）の育成がこれからの鬼無の最初の課題であると考えています。鬼無は他の地区と少し変わった自治会の体制を作っており、連合自治会を9地区に分け、9名の《地区長》を置き、連合自治会長はその地区長の中から選出されます。そして副地区長的位置の《幹事》がおり、その下に各自治会長がおります。このシステムで鬼無は様々な行事をまず地区長に相談し、そこから各自治会長に流れていくので比較的自治会運営がスムーズに行われてきました。ただ高齢化の波は鬼無も例外ではなく、地区長に課せられる様々な業務は年齢的にかなりの負担になっているのも事実です。幹事は地区長に比べて若い方がなっておられるようですが各自治会長と任期が同じで年度での交代もあり次期地区長ということにはなっていないようです。

私個人の意見でありますことを前提にしてですが、



9地区に30歳後半～50歳前半くらいの活力ある方を2名から3名程度人選（女性もおおいに参加）し、任期を5年とし、お祭りの設営、準備のような体力が必要な場合に地区長に代わって交替で参加する体制をつくり、将来その中から地区長（女性も可）を選出するというようなシステムを作れないものであろうかと思っています。実際に地区に何人かはリーダー的なたとえばPTA活動、スポーツ少年団指導などで活躍されている方が大勢おられます。

ですから、今後の未来予想図《夢》としましては各地区2～3名のニューリーダーをコミュニティに参加して頂き、総勢25・6名程度で総務企画部会とでも称し、議論を活発化させて、新しい行事の企画などを通して鬼無のコミュニティの将来が活気あるものとなることを希望しています。

3、防災に対する取り組みと3～4年後について

平成21年度に初めての町民一体となった1,000名規模の大掛かりな防災避難訓練を無事に滞りなく行うことが出来ました。これには丸亀市川西自主防災会の岩崎会長を初めとする会員の皆様、久保会長を初めとする香川県防災士会の皆様、香川大学工学部の長谷川教授と学生の皆様に多大なるご協力・ご指導を賜りました。改めましてこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

そして、今年度は規模を縮小し、昨年度の10分の1程度の100名参加の防災訓練を高松西消防署の皆様のご協力・ご指導のもと会場も西消防署内施設をお借りして先日、9月25日（土）に無事恙無くとり行えました。そして冬にはコミュニティセンターにて《トリアージ講習》を行いたいと予定しております。

災害用資機材も年間の予算立てをし、少しずつではありますが購入し、コミュニティセンター敷地内に設置してある防災倉庫内に除々に増やしていきたいと考えております。

年度により様々な規模やタイプの訓練をサイクル化して何回も行いながら町民の意識の中に《防災＝自分達の身は自分達で守る》ということを感じて出来ればど

のような訓練内容も感覚的に覚えた知識として共有しながら未曾有の事態にあわてることなく協力し助け合い、無事に乗り切れると思っています。何より鬼無町には昔ながらの人情があります。それが我町の自慢です。

